

洪水によって生まれた池から清らかな水が湧き出たため、「玉の池」と名付けられた場所を中心に、竹井澹如が造園しました。



星溪園



星溪寮



積翠閣月見台

星溪園とは

星溪園（せいけいえん）は、竹井澹如（たけいたんじょ）が慶応年間から明治初年にかけて作った回遊式庭園の市指定名勝です。1623（元和9）年、荒川の洪水により星溪園の西方にあった土手（北条堤）が切れて池が生じ、その池は清らかな水が湧き出るので「玉の池」と呼ばれ、この湧き水が、星川の源となりました。澹如翁が、ここに別邸を設け、「玉の池」を中心に竹木を植え、名石を集めて庭園としました。

昭和初期、この地を訪れた前大徳牧宗禅師が、「星溪園」と命名。1950（昭和25）年に熊谷市が譲り受け、1954（昭和29）年に市の名勝として指定されました。

▶ 星溪園を作った竹井澹如

竹井澹如は、1839（天保10）年、群馬県甘楽郡南牧村羽沢の豪族市川家に生まれ、熊谷宿の本陣竹井家を継ぎ、竹井家の14代当主となりました。幼名を萬平と言い幽谷と号しました。

政治に深く関心があり、地方実力者の養成に努め、中央政界の大隈重信、板垣退助、陸奥宗光らとも親交があり、陸奥宗光に働きかけて熊谷県誕生に尽力したことで有名です。教育面でも渋沢栄一らと協力し、育英事業にも貢献しました。

1879（明治12）年、初代の県議会議長となり、政府の要職をすすめられたが、始終一貫、熊谷地方のために貢献し、産業・土木面でも大きな功績を残しました。

熊谷県庁の誘致・旧熊谷堤の修築と桜の植樹・養蚕業の振興・私立中学校（セキテイ学社）の創設などの偉業を残し、1912（大正元）年8月、74歳で永眠されました。



竹井澹如

▶ 名実ともに熊谷の「顔」になった星川

1623（元和9）年の荒川の氾濫によりできた「玉の池」（現・星溪園）からわき出る清流を源としていました。水がことのほか清く、染物を洗ったり、子供たちが水遊びをしたといえます。また、1945（昭和20）年8月14日に熊谷は米軍の空襲を受けて、星川でも多くの犠牲者がでました。その後、熊谷市では、熊谷の玄関としてふさわしい顔づくり、文化の香り漂う市民のオアシスとして、市街地の中央を流れる星川の景観整備を進めました。

1975（昭和50）年から広場を設け、各広場に彫刻像を設置し、「水と緑と彫刻のプロムナード」として広く親しまれ、1987（昭和62）年、第1回さいたま景観賞を受賞しました。現在は「星川シンボルロード」として、名実ともに熊谷の「顔」になっています。



星川シンボルロード

コラム 現在は文化教養の場としても利用される星溪園

1990～1992（平成2～4）年にかけて園内の整備が行われた際には、老朽化の見られた建物は数奇屋感覚が取り入れた上で復元されました。園内には、星溪寮、松風庵、積翠閣の3つの建物があり、お茶会などの日本的文化教養の場として、利用できます。



松風庵

アクセス

星溪園

交通：JR高崎線「熊谷駅」より徒歩約18分、

秩父本線「上熊谷駅」より徒歩約3分

住所：熊谷市鎌倉町32番地



地図：国土地理院 平28情復第325号

星溪園

